

教専寺新聞

「いのち」

令和六年二月号

No.242



教専寺ホームページ

謹賀新年

あけまして

おめでとうございます

旧年中は大変お世話になりました。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

今年二〇二四年は宗祖・親鸞聖人が浄土真宗を開かれてから八〇〇年という節目の年にあたります。

世界では各地で争いが激しくなり、多くの人が力なく涙をこぼしておられます。私たち自身も不安や心配なことが益々大きくなっています。よろこぶ時も悲しい時も仏さまがご一緒くださいます。

今年もお念仏の道を歩ませていただきましょう。

1月の予定

【修正会】

1月1日(祝)午前8時より

【御正忌法座～おたんや～】

1月15日(月)午前10時より

【仏婦例会】

1月12日(金)午後1時30分より

【清掃奉仕】

毎週金曜日午後2時より

教安寺

【修正会】1月1日(祝)午前10時より

毎年、年末になるとロウバイと紅白の南天をお供えいただきます。ロウバイの香りを嗅ぐと新年の晴れやかな空を思い浮かべます。とても良い香りです。本玄閼の前に生けていますので、香りを楽しんでください。穏やかな香りとともに、今年いちねん皆さまのころにも素敵なお花が咲きますよう念じております。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

新しい人生が始まります

親鸞聖人がお開きくださいました浄土真宗の根本は、阿弥陀如来のご本願です。「私の願い」ではありません。人知を超えた仏さまが世の中をご覧になり、見捨ててはおけないとはたらきかけ、喚び続けてくださっているお慈悲のはたらきです。単なる願いではなく、果たし遂げずにはおれないという誓い、誓願です。ですから、私のはからいを交えず素直に受け容れること以外に方法はありません。

他力の信心とは、私が信じる、信じないではなく、南無阿弥陀仏が私の身に届くことです。届いた南無阿弥陀仏は、お念仏となって私の口から出てきます。そこから新しい人生が始まります。

人生には老病死をはじめ、さまざまの苦悩が寄せてきます。人間の煩惱が引き起こしながら、個人のみだけでは解決しない苦しみが広がっています。それを阿弥陀如来のお心に包まれ、支えられて、受けとめ、歩んでいくのです。各自の苦しみ、各自の受けとめ方は同じではないでしょうが、それぞれにふさわしい受けとめ方が生まれてくるはずですよ。

お慈悲に目覚めたうちは、そのまま、そのままと成り行きに任せるのではなく、御恩報謝のお念仏を申しながら自分なりに受けとめ、対処するのです。

築地本願寺報恩講法要

前門さまご法話より

本願寺新報二〇二三年十二月二十日号